

霧島市の地域公共交通の現状等について

平成27年7月14日
霧島市地域公共交通会議

I 霧島市の公共交通の現状等について

ふれあいバス



妙見路線バス



デマンド交通



路線バス



市街地循環バス



霧島市運営
有償運送
(福山地区)



霧島連山周遊バス



J R



I 霧島市の公共交通の現状等について

1 ふれあいバス

- 国分、横川、牧園及び霧島地域においては合併前からコミュニティバスを運行し、合併後、旧市町の運行を引き継ぐとともに、平成20年4月から新たに溝辺地域及び福山地域において運行を開始した。
- 隼人地区は「市街地循環バス」を運行しているため、ふれあいバスは運行していない。

実績

地域名		国分	牧園	霧島	溝辺	横川	福山
路線数		9路線	14路線	4路線	5路線	10路線	7路線
H 25 年度	利用者数	34,728人	5,786人	5,773人	4,757人	11,860人	10,153人
	1便当たり利用者数	8.3人	1.5人	3.0人	2.5人	4.6人	3.5人
	収支率	14.71%	4.02%	5.11%	6.08%	6.81%	2.77%
	収支率(国補助を含む)	14.71%	6.65%	5.11%	57.88%	6.81%	48.47%
H 26 年度	利用者数	34,370人	5,204人	5,094人	5,107人	10,559人	7,275人
	1便当たり利用者数	8.2人	1.3人	2.7人	2.6人	4.2人	2.5人
	収支率	13.40%	3.64%	4.47%	6.59%	5.98%	2.09%
	収支率(国補助を含む)	13.40%	6.45%	4.47%	57.86%	5.98%	51.16%
運行事業者		いわさきバスネットワーク(株)			南国交通(株)		三州自動車(株)

* 赤字：前年度との比較において減少 * 溝辺、福山及び牧園の一部は国庫補助対象路線

I 霧島市の公共交通の現状等について

ふれあいバスの課題等

- ① ふれあいバスの利用者数は、77,935人（H23年度）、74,974人（H24年度）、73,057人（H25年度）、67,415人（H26年度）と年々減少傾向にある。
- ② 75歳以上の運転手を対象に、記憶力や判断力を測る「認知機能検査」の強化を柱とした改正道路交通法が平成27年6月11日に成立した。厚生労働省によると、2025年には高齢者の5人に1人が認知症になる見込みであり、高齢者の移動手段の確保が重要な課題となる。
- ③ 利用促進に当たっては、行政主体の施策（免許返納・いきいきチケット）のみならず、市、地域及び事業者の連携した取組が必要不可欠である。（新たな利用促進策の構築）
- ④ 一部の路線は、スクール対応便として運行しており、本年10月からの土曜授業の開始に伴い、土曜日の運行手段を確保する必要がある。
- ⑤ モニタリング（評価・検証）と改善の流れを構築する必要がある。（PDCAサイクル）

P LAN	運行ルート案の検討、地域公共交通会議における検討 等
D O	実証運行の実施
C HECK	収支率、乗降客数等の把握、評価（本格運行の継続・廃止の判断）
A CTION	本格運行の開始、運行の改善



I 霧島市の公共交通の現状等について

2 デマンド交通

- 平成23年10月から霧島地区永水地域、平成24年12月から溝辺地区有川地域において、同地域を運行するふれあいバスの路線を廃止し運行を開始した。
- あらかじめ基本路線と目安時刻を定める区域内運行。予約によって最短ルートを運行し、予約がない場合は運行しない。
(運行日：週3回(月・水・金) 運行回数：往路3便・復路3便 計6便)

実績

地域名		霧島地域永水地区	溝辺地域有川地区
H 25 年度	利用者数	1,346人	387人
	運行実日数／運行予定日数 (運行率)	150日／155日 (96.8%)	109日／155日 (70.3%)
	収支率	13.2%	8.8%
H 26 年度	利用者数	1,214人	205人
	運行実日数／運行予定日数 (運行率)	145日／155日 (93.5%)	74日／155日 (47.7%)
	収支率 (国補助を含む)	11.9% (59.2%)	7.6% (61.4%)
運行事業者		A T 交通(株)	(有)中村タクシー

* 赤字：前年度との比較において減少

I 霧島市の公共交通の現状等について

デマンド交通の課題等

- ① 霧島地区永水地域、溝辺地区有川地域のいずれの地域においても利用者は減少傾向にあり、特に有川地域における減少幅が大きい。
(前年度比：永水地域90.2% 有川地域53.0%)
- ② 1台のタクシーに複数人が一緒に乗り合わせた割合は、永水地域が54.8%、有川地域が34.2%であり、運行の効率化を図る必要がある。
- ③ いずれの地域においても登録者数が伸び悩んでいる。
また、利用時間に偏りがあり、住民ニーズに合わせた運行形態を検討する必要がある。

地域	登録者数 (人)	利用経験者数 (人)	利用率 (%)	平成26年度利用者数 (人)					
				往路便			復路便		
				第1便 8:50	第2便 9:50	第3便 10:50	第4便 11:50	第5便 12:40	第6便 14:20
永水	50人	19人	38.0	47	503	65	370	156	73
有川	50人	12人	24.0	76	23	6	89	9	2

- ④ 複数の地域からデマンド交通の導入に関する要望が上がってきており、デマンド交通導入のガイドライン（導入基準等）を整備する必要がある。

I 霧島市の公共交通の現状等について

3 市街地循環バス

- 合併前の旧隼人町において、「隼人巡回バス」として運行していたが、平成20年度から国分地区まで路線延長を行い、「市医療センター～隼人駅～浜之市～国分駅～医療センター」を基本に、いわさきバスネットワーク(株)が1日19便を運行している。
- 運行収支の欠損分（経常費用－経常収益）の全額を市が負担（補助）している。

実績

路線名	平成25年度			平成26年度		
	利用者数 (人)	1便当 り利用者 数(人)	収支率 (%)	利用者数 (人)	1便当 り利用者 数(人)	収支率 (%)
上小鹿野・医療センター線	7,710	5.6	22.63	7,014	5.1	20.72
中福良小学校線	10,330	25.6	116.99	10,569	26.6	109.77
上小鹿野・国分線	4,312	2.8	16.55	4,072	2.6	15.08
医師会医療センター線	3,962	6.0	27.14	3,664	5.6	24.33
霧島市役所・上小鹿野線	3,864	4.1	19.46	3,436	3.6	17.53
霧島市役所・医療センター線	1,757	3.0	22.14	1,574	2.7	19.60
医師会医療センター・国分線	775	2.6	39.10	717	2.4	35.17
合計	32,710	5.6	26.99	31,046	5.3	24.61

*各年度とも利用者数は、前年度の10月1日～9月30日の実績（例：平成26年度：平成25年10月1日～平成26年9月30日）

*赤文字：前年度との比較において減少

I 霧島市の公共交通の現状等について

市街地循環バスの課題等

- ① 市内中心部を運行する循環バスとして市が全額運行補助を行う「市街地循環バス」と民間路線バスである「隼人国分循環バス」の2つの路線が存在しており、本路線の在り方について検討を行う必要がある。
- ② ふれあいバスを運行していない隼人地域の住民から、地区内への乗入れ等の要望が上がっており、当該地区への運行について検討を行う必要がある。
- ③ 市の財政負担（補助金）は
17,765千円（平成24年度）
19,357千円（平成25年度）
20,637千円（平成26年度）
と年々増加している。
- ④ モニタリング（評価・検証）と改善の流れを構築する必要がある。



I 霧島市の公共交通の現状等について

4 霧島連山周遊バス・妙見路線バス

【霧島連山周遊バス】

- 平成17年から、毎週土日に「霧島神宮駅～霧島神宮～高千穂河原～えびの高原」（1日2往復）を運行していたが、九州新幹線全線開業に伴い、平成23年3月12日以降は毎日運行を開始した。
- その後、登山者及び他のバス路線の現状を踏まえ、丸尾を拠点とした系統変更を行った。（丸尾～えびの高原～高千穂河原ビジターセンター～丸尾）

【妙見路線バス】

- 平成14年から、妙見温泉振興協会が「妙見温泉バス」を運行していたが、九州新幹線全線開業に伴い、平成23年3月12日から、市の委託事業として運行を開始した。（隼人駅～鹿児島神宮～妙見温泉～嘉例川駅～鹿児島空港）

実績

名 称		霧島連山周遊バス	妙見路線
25 年度	利用者数	3,973人	6,374人
	収支率	24.0%	16.5%
26 年度	利用者数	4,046人	6,497人
	収支率	24.60%	16.8%

* 赤字：前年度との比較において減少

I 霧島市の公共交通の現状等について

霧島連山周遊バス・妙見路線バスの課題等

【共通課題】

年間約600万人を超える観光客の回遊性を高めるための移動手段（二次アクセス）の確保が課題となっている。

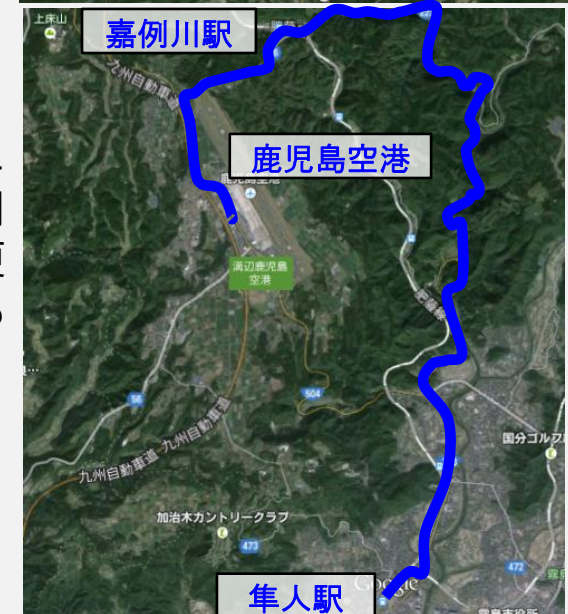
【霧島連山周遊バス】

霧島山の登山客等のニーズに沿った運行形態への見直しを図る必要がある。



【妙見路線バス】

妙見路線バスは旅行者の二次アクセスを確保するために運行しているが、近年は地元住民の移動手段としての利用が多いように見受けられる。観光客の動向を踏まえた利便性の向上を図るため、運行形態等の見直しを図る必要がある。



I 霧島市の公共交通の現状等について

5 路線バス

- ① 市内の路線バスは、主に、いわさきコーポレーション（いわさきバスネットワーク(株)・三州自動車(株)）と南国交通(株)が運行しており、南国交通(株)が溝辺、横川地区と牧園・隼人地区の一部を担い、その他の地域はいわさきコーポレーションが運行している。
- ② 大隅半島（垂水・鹿屋・志布志）と主要交通拠点の鹿児島空港及び国分駅間を運行する路線、県立福山高校・県立霧島高校への通学便などの重要路線が多数存在している。
- ③ 路線バスの運行に係る市の財政負担（補助金）は、53,298千円（平成24年度）57,587千円（平成25年度）、68,007千円（平成26年度）と年々増加している。
- ④ 国分駅東口乗入による駅構内での一般車両等の混雑により、国分駅構内出入り及び乗降取扱いに時間を要し、遅延が発生している状況がある。
- ⑤ 平成27年6月26日に開催された宮崎県バス対策協議会等において、宮崎交通(株)から、市内を運行する「都城―霧島神宮線」について、路線廃止を含めた検討を行っている旨の申し出があった。

【都城―霧島神宮線の概要】

ア 便数：1日往復6便

イ 運行距離：総運行距離37.4km（都城市32.4km 曾於市1.5km 霧島市3.5km）

ウ 費用負担：国の地域公共交通確保維持改善事業補助金の適用を受けており、欠損分を国、県、事業者が負担（霧島市の負担は発生していない。）

I 霧島市の公共交通の現状等について

6 霧島市運営有償運送

- 自家用有償旅客運送は、地域によってはバス事業者やタクシー事業者の運送事業者が存在しない、あるいは対応できない場合において、地域の足を確保する重要性にかんがみ、公共の福祉を確保する観点から、**地域公共交通会議の合意を経て**、①自家用車を用いて、②有償で、③運送（＝「移動サービス」もしくは「移送サービス」）を行うもの。
- 福山地区佳例川地域及び比曽木野地域において、市が運行する有償運送を導入している。

実績

路線	区分	平成25年度		平成26年度	
		利用者数	収入	利用者数	収入
比曽木野線	スクール（無料）	239人	0円	386人	0円
	スクール以外（有料）	261人	32,430円	274人	35,640円
佳例川線	スクール（無料）	1,894人	0円	1,447人	0円
	スクール以外（有料）	67人	7,320円	31人	3,190円
合計	スクール（無料）	2,133人	0円	1,833人	0円
	スクール以外（有料）	328人	39,750円	305人	38,830円

* 赤文字：前年度との比較において減少

1 霧島市の公共交通の現状等について

7 JR

- JR日豊本線及び肥薩線を所属路線とする11か所の駅が設置されており、国分駅、隼人駅及び霧島神宮駅の3駅が有人駅、残りの8駅は無人駅となっている。
- 鹿児島県鉄道整備促進協議会、肥薩線利用促進存続期成会等を通じ、JR九州に対し、各種要望活動を行っている。

実績

駅名	所属路線	有人・無人	駅ホーム	1日当たり乗降客数（人）		
				平成24年度	平成25年度	平成26年度
北永野田駅	日豊本線	無人駅	2面2線	9	8	7
霧島神宮駅	日豊本線	有人駅	1面2線	461	462	404
国分駅	日豊本線	有人駅	2面3線	5,630	6,055	5,750
隼人駅	日豊本線	有人駅	2面3線	3,495	3,585	3,346
日当山駅	肥薩線	無人駅	1面1線	196	200	169
表木山駅	肥薩線	無人駅	2面2線	3	3	2
中福良駅	肥薩線	無人駅	1面1線	6	5	5
嘉例川駅	肥薩線	無人駅	1面1線	80	75	71
霧島温泉駅	肥薩線	無人駅	1面2線	610	630	566
植村駅	肥薩線	無人駅	1面1線	5	8	8
大隅横川駅	肥薩線	無人駅	2面2線	203	226	235

I 霧島市の公共交通の現状等について

JRの課題等

- ① 市内11駅については、概ね、有効幅員の確保や道路と乗降場をつなぐスロープの設置や、すりつけが行われており、ある程度バリアフリーに対応しているものの、車椅子利用者が付き添いなしで利用することは困難な状況にある。
- ② 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律において、1日当たりの平均的な利用者数が3,000人以上の鉄軌道駅については、平成32年度までにバリアフリー化（エレベーターの設置）を実施することとされている。
- ③ 現在、隼人駅東地区土地区画整理事業を実施しており、JR九州(株)と隼人駅周辺及び駅構内の整備に関し協議を行っている。
- ④ 迅速な改札通過及び他路線への乗継を可能とし、利用者の利便性の向上を図るため、ICカード（SUGOCA）利用可能駅の拡大を図る必要がある。
- ⑤ 海外から訪れる観光客がスマートフォン等による情報収集やメール等が可能となる無料Wi-Fi環境の整備を進める必要がある。
- ⑥ JR駅は、重要な交通結節点であることから、二次アクセスの向上等、移動しやすい環境整備を強化する必要がある。

H27年3月にJR九州(株)鹿児島支社が、霧島神宮駅待合所に間仕切りを設置。→

